

視察報告書

報告者氏名 流政会 近藤美保



1 期 間

平成30年4月26日(木)

2 視察先及び視察内容

(1) 埼玉県三芳町

ア 広報について

3 所 感

埼玉県三芳町は、人口約3万8千人の池袋から約25分の都会に近いわりには緑豊かな自治体で「トカイナカ」を標榜している。今回は全国広報コンクールで優秀な成績を収めている三芳町の広報について視察について視察を行った。

「広報 Miyoshi」は発行部数1万6千部、三芳町の魅力を伝え誰もが町を好きになることを目的に、特に若年層向けの購読者を増やすべく、ネーミングを「広報みよし」から「広報 Miyoshi」とローマ字表記に変更、印象深い写真を多用するとともに、文字を少なくしたり、ARや動画連動などの革新的な取組も行われてきた。結果、広報で情報収集する市民は20代を中心に急増する一方で、高齢者からの不評は無く読まれ続けたため、購読者母数が純増したとのことだった。

自治体で広報の議論をする際に、より多くの世代に購読されるようにと言われるものの、出来ない理由が先行して結局実施されない改善項目として参考になるものは沢山あった。

①ユニバーサルフォントの導入

子どもにもお年寄りにも読みやすい、文字の形が分かりやすいフォントを導入されている。華やかにうつる写真やキャッチコピー改善だけでなく、多様性への配慮についてきめ細やかに実施され

ている点が素晴らしい。

②直観的に情報を伝えるデザイン

直観的に情報を伝えるため、アイコンを自作し、レイアウト等を工夫した。レイアウトについては、他自治体の広報を取り寄せ、良い所、悪い所を徹底的に分析したとのことである。自身の思い先行だけで改善点を見出していない点が素晴らしい。

③9言語に対応するカタポケ

多言語デジタルブックカタログポケットを導入し、スマートフォンやタブレットで文字を大きくしたり、多言語表示をしたり、音声で読み上げたりするソフトと連動できるようにした。もはや自治体広報のレベルを凌駕していると思うのは私だけであろうか。

④町民に広報に積極的に出て頂く

町民に積極的に出ていただき、データでプレゼントしているとのこと。データでプレゼントすると、年賀状などで使っていただける。あわよくば三芳町のアピールになると考えているようだ。広報費として新たな税金を抛出せず、こんな工夫で他自治体にアピールできてしまう仕掛けを実施する姿勢が素晴らしいと思う。

⑤ARタグを埋め込みクロスメディアを実現

ARタグを埋め込み、関連の動画を自動再生、1クリックでホームページに誘導するというユーザインターフェースにも配慮したデザインに。

上記のような広報改革を実施した結果「広報 Miyoshi」自体のブランド力が向上し、8,000円×24×12か月の年間230万円の広告料としての収入が増えたそうである。読んでもらうデザインレイアウトを意識することにより、情報が正確に伝わり、住民からの無駄な問い合わせが減ることで仕事の効率化につながったとのこと。

「広報 Miyoshi」に留まらず、各担当課に分かりやすいビラデザインについての勉強会を行った所、各担当課レベルで格段の変化があったという話もあった。流山市でもビラが分かりにくいことにより私に問い合わせも多くある。今度研修を提案してみたい。

しかし、何よりも印象に残ったのは、秘書広報室職員である佐久間氏の「対価（税金）を得て仕事をしている以上プロである」と言い切る姿勢である。住民に直接声をかけ足を運び意見を聞くことを欠かさない。この姿勢と行動が住民目線を大切にしながらの情報発信を実現していると思う。私もこの姿勢を見習い、大切にしていきたいと思う。いつか議会だよりもバージョンアップしたい。